

# 真空成型式副木(医療機器クラス I)の開発

ファミリー・サービス  
・エイコー株式会社

所在地

長野市

資本金

4億9800万円

従業員数

44名

主要事業

ヘルスケア、生活雑貨

公益財団法人長野県テクノ財団支援事例  
【信州医療機器事業化開発センター】

担当コーディネーター： 櫻井 和徳

## 研究開発のポイント

### 【課題】

従来の真空成型式副木は欧米製で、サイズが大きく日本人の体形に合わない、素材が厚く腕や足に巻きつけにくい、体液等で汚染した場合に清拭しにくい、高価で買い替えが困難、等の課題がありました。

### 【開発概要】

救急現場のシミュレーション訓練見学会を行った際に、救急救命士から提起された課題解決ニーズを受けて企業とマッチングした。

救急救命士と協働して前記課題を解決した商品を開発し、救急分野で影響力を持つKOL (Key Opinion Leader) にご評価いただきました。医療機器届出を行い、救急専門の販売業者とマッチングし販売開始(令和4年7月見込)。

## 活用した支援制度

・専門コーディネーターによる伴走的支援事業

## 主な開発成果

### ○特徴

- ・日本人の腕や足のサイズに合わせた形状
- ・しなやかで取扱い易く、清拭し易い素材を採用
- ・ガーゼの取付を可能とし、外傷を伴う骨折にも迅速に対応可能

### ○価格

- ・従来の輸入品の半額以下の小売価格を実現



## 効果

- 痛みの激しい骨折や外傷の応急処置を迅速に行い、一刻を争う命に係わる傷病の処置や検査に移行可能

## 参画機関

- ・北アルプス広域消防本部
- ・信州大学医学部附属病院 高度救命救急センター
- ・信州メディカル産業振興会
- ・国土舘大学大学院 救急システム研究科